

平成30年(2018年)3月23日
 農政部 農業政策課 企画係
 (課長)中村 正人(担当)高橋 敬三
 電話:026-235-7213(直通)
 026-232-0111(代表)内線3017
 F A X : 026-235-7393
 E-mail:nosei@pref.nagano.lg.jp

第3期長野県食と農業農村振興計画(案)の概要について

1 計画のポイント

(1) 基本方向

【基本目標】

次代へつなぐ、笑顔あふれる信州の食と農業・農村

- ・ 農業者が減少している中で、次代の本県農業・農村を担う者に、農地や技術、郷土食、農村の文化や景観などを確実に“つなぐ”とともに、農業・農村の魅力向上を推進
- ・ 第3期計画では、「次代へつなぐ信州農業」、「消費者とつながる信州の食」、「人と人がつながる信州の農村」の3本柱で推進

(2) 基本指標

経済努力目標

3,300 億円

(農業農村総生産額)

- ・ 農産物産出額：県オリジナル品種等の戦略的な拡大とマーケティングなどにより増
- ・ 農業関連産出額：県産農産加工品の拡大などにより増 をそれぞれ目指す

経済努力目標	現状 (2015年)	目標 (2022年)	現状との対比
農業農村総生産額	3,118 億円	3,300 億円	105.8%
農産物産出額	2,916 億円	3,000 億円	102.9%
農業関連産出額	202 億円	300 億円	148.5%
農業の単位面積当たり生産性	268 万円/ha	284万円/ha	106.0%
(参考)			
品目別の単位面積 当たり生産性	・米 380 万円/ha	141 万円/ha 421 万円/ha	110.9% 110.6%
	・野菜 ※ 371 万円/ha	369 万円/ha	99.5%
	・花き 2,125 万円/ha	2,247万円/ha	105.7%

※野菜は、2015年は価格が高騰し生産性が上昇したため、目標を平年単価で試算した2022年は2015年を下回る

(3) 重点的に取り組む事項

計画の実現に向けて、農業分野だけでは解決できない広域的かつ横断的な課題に対し、製造業や観光業など他分野の民間企業等との連携により、地域と一体となって取り組む事項

1 経営のイノベーション

- ・ 自らの経営の改善に取り組む本県農業を牽引する先駆的な経営者を育成
- ・ 教育機関等と連携した将来の担い手の確保・育成

2 生産のイノベーション

- ・ ICTやドローン、作業ロボットなど最先端技術の生産現場への導入・普及
- ・ 産学官連携によるAI等を活用した新技術の開発と実用化

3 マーケティングのイノベーション

ア 園芸県長野の振興

イ 信州産農畜産物等の輸出拡大

ウ 食品産業の県産農畜産物利用拡大

4 農村の活性化

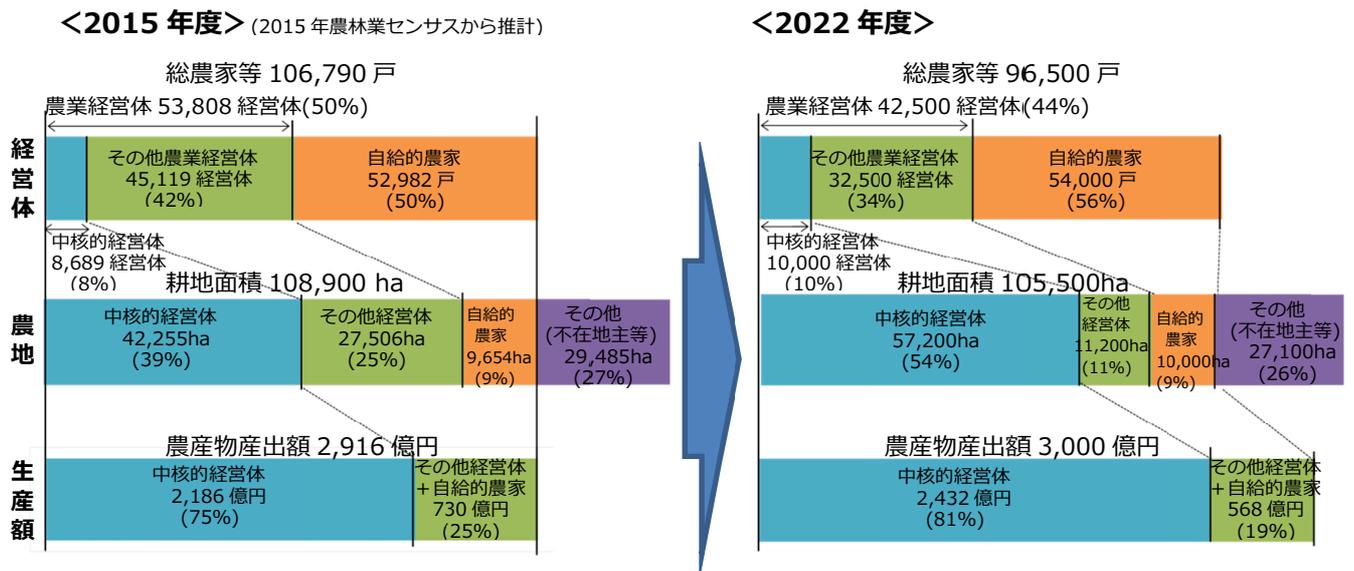
- ・ JA等と連携した農村コミュニティ活動への支援
- ・ 疏水やため池、棚田などの農村景観や資源を観光に活用

【関連計画(案)】： 第3期長野県食と農業農村振興計画の策定に伴い、分野毎に5か年計画として策定しているもの

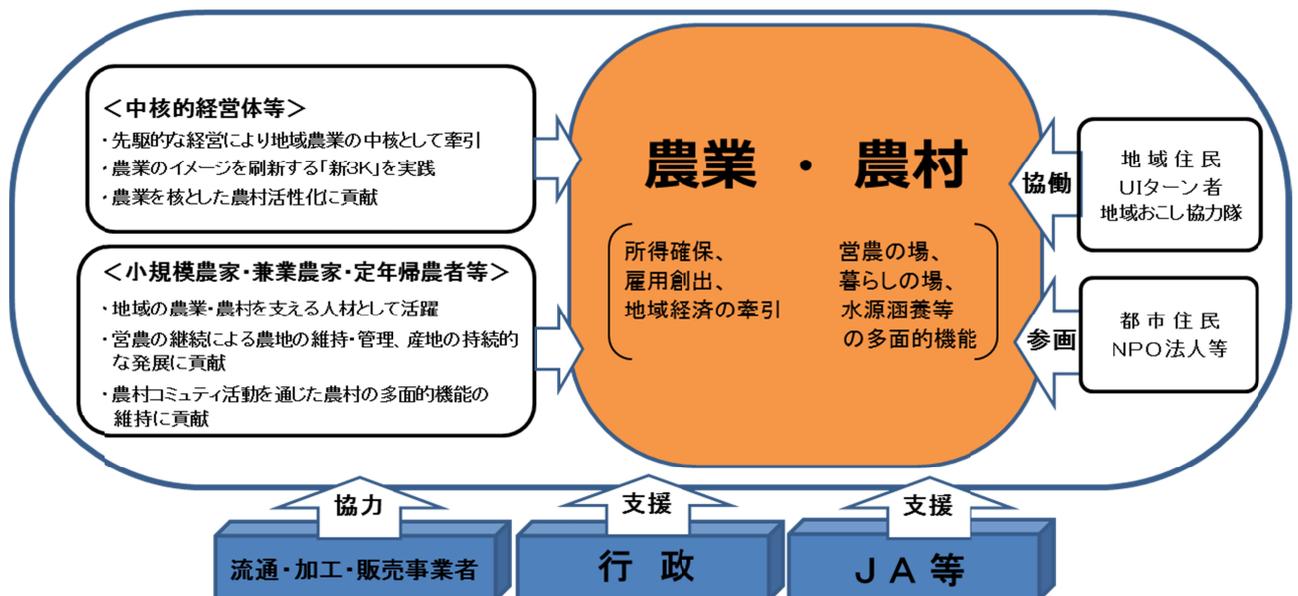
- ・第3期信州農産物マーケティング推進計画
- ・長野県農業農村整備計画（第8次土地改良長期計画）
- ・長野県農業関係試験研究推進計画（農業技術ステップアッププログラム）
- ・新長野県農村女性チャレンジプラン（第6次長野県農村女性プラン）
- ・第3期長野県有機農業推進計画

2 農業・農村のめざす方向

- 中核的経営体が、農地利用、農産物生産の大宗を担う農業構造に加速させる。



- 皆で支える農業・農村



農業・農村の現場において、中核的経営体、小規模農家、兼業農家の他、地域住民や移住者などの出番と役割に加え、都市住民やNPO法人など農村に関わる方の位置付けを明確化

3 施策の方向

長野県総合5か年計画

第3期長野県食と農業農村振興計画

学びの県づくり

主な施策等

基本方向1 次代へつなぐ信州農業 [産業としての農業]

1 次代を担う経営体の育成と人材の確保

- ア 企業マインドで信州農業を支える中核的経営体の育成
- イ 中核的経営体を支える雇用人材の安定確保
- ウ 次代の信州農業を担う新規就農者の確保・育成
- エ 地域農業を支える多様な農業経営体等の確保・育成

- ・農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化
- ・法人化などによる経営の体質強化
- ・意欲の高い雇用就業者(従業員)の確保及びスキルアップ
- ・障がい者や高齢者など多様な人材の雇用支援
- ・教育委員会等と連携した若者の将来の就農に向けた支援
- ・ステップアップ方式による新規参入希望者に対する就農支援
- ・集落営農組織の育成や法人化の支援 等

2 消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産

- ア マーケットニーズに応える競争力の高い信州農畜産物の生産
- イ 環境農業の推進と農畜産物の安全性の確保
- ウ 次代を拓く新品種・新技術開発と普及活動の展開
- エ 稼ぐ農業を支える基盤整備の推進

- ・水田農業経営の効率化・複合化等による体質強化
- ・利ジナル品種の戦略的生産拡大など園芸農業の強化
- ・先端技術導入による本県畜産の生産性とブランド力の向上
- ・実需者ニーズに応える信州ブランド魚の安定生産
- ・環境農業を基本とした国際水準GAP認証への取組拡大
- ・消費者に高く評価される魅力ある利ジナル品種開発
- ・収益性を高めるための農地の条件整備 等

3 需要を創出するマーケティング

- ア プレミアム・オリジナル・ヘリテイジによるブランド力の強化
- イ マーケットインによる農畜産物の需要創出
- ウ 世界に求められる信州農畜産物の戦略的な輸出促進
- エ 稼ぐ6次産業化ビジネスの展開

- ・県産農畜産物のブランド力の強化に向けた「おいしい信州ふード」の取組強化
- ・需要を創出する戦略的なマーケティングの展開
- ・県産農産物と花きの輸出拡大と新規需要の創出
- ・食品産業と連携した県産農産物等の需要創出
- ・6次産業化の取組者に対する産学官金の連携による支援 等

基本方向2 消費者とつながる信州の食 [消費者が求める食]

1 本物を味わう食と食し方の提供

- ア 「おいしい信州ふード」の取組による信州産食材の魅力発信
- イ 食の地消地産と農産物直売所機能の強化

- ・「おいしい信州ふード」による県民運動の展開
- ・実需者での県外産から県内産食材への置き換えなど地消地産の推進 等

2 しあわせな暮らしを支える豊かな食の提案

- ア 未来を担う子どもたちへの信州の食の伝承
- イ 地域ぐるみで取り組む食育の推進

- ・学校訪問などによる子供達への信州の食の伝承
- ・他部局や関係団体と連携した食育の推進 等

基本方向3 人と人がつながる信州の農村 [暮らしの場としての農村]

1 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり

- ア 持続的な営農を支え、暮らしを守る農村環境の整備
- イ 都市住民との協働など皆に理解されて進める多面的機能の維持

- ・農村の暮らしを守る防災減災対策
- ・多面的機能を維持発揮するための地域ぐるみで行う共同活動への支援 等

2 多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持

- ア 誰にでも居場所と出番がある農村づくり

- ・JAと連携した農村コミュニティ活動への支援
- ・一人多様な暮らし方による地域コミュニティの維持 等

3 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用

- ア 自治の力みなぎる県づくり

- ・農村の地域資源を観光に活用する取組を支援
- ・小水力発電などEco-Tourの地消地産の取組を支援 等

産業の生産性の高い県づくり

確かな暮らしが営まれる美しい信州

人をひきつける快適な県づくり

いのちを守り育む県づくり

誰にでも居場所と出番がある県づくり

自治の力みなぎる県づくり

4 達成指標

計画の着実な実行確保を図るため、施策の推進管理として **26項目 29指標**を設定

番号	項目	現状 (2016年度)	目標 (2022年度)	設定の考え方
1	中核的経営体数	8,998経営体	10,000経営体	将来にわたり本県農業生産を維持・発展させるため、次代を担い、本県農業を支える中核的経営体を確保する
2 ※	法人経営体数及び その常雇用者数	958経営体 ()	1,080経営体 ()	経営継承による営農の継続、経営発展等を図るため、法人経営体の育成とその経営体を支える雇用者を安定確保する
3	中核的経営体への農地の集積率 ※現状: 2015年度	39%	54%	中核的経営体(担い手)における作業の効率化、低コスト化を実現するため、農地の利用集積を促進する
4	新規就農者数(45歳未満)	224人/年	250人/年	中核的経営体を安定的に確保・育成するため、新規就農者数を毎年250人以上確保する
5	集落営農組織数	327組織	350組織	将来にわたり農地を維持管理していくため、多様な農業者が相互に支え合う集落営農組織の育成及び統合を進める
6	効率的な水田農業経営体数及び その面積割合	615経営体 35.1%	800経営体 45.0%	競争力のある経営体が主体となった水田農業を推進するため、効率的な生産が可能な5ha規模以上の水田農業経営体を育成する
7	実需者ニーズの高い県オリジナル 品種の普及面積(米・麦・大豆・そば)	2,000ha	3,370ha	多様化する消費者・実需者ニーズに対応するため、独自性・強みを持つ県オリジナル品種の生産を拡大する
8	果樹戦略品種等の栽培面積	1,884ha	2,826ha	既存オリジナル品種等(6品種)に加え、シナノリップ、ブドウ長果11、スモモ長果1の早期産地化を図るため、栽培面積を拡大する
9	りんごの高密植栽培・ 新しい化栽培面積	257ha	735ha	早期成園化・多収化を図るため、高密植栽培等の導入面積を拡大する
10	夏秋期のレタス、ハクサイ、キャベツの全 指定産地出荷量に占める契約割合	36.1%	40.8%	安定的な販路を確保するため、契約取引を拡大する
11	信州プレミアム牛肉の認定頭数	3,477頭/年	3,800頭/年	生産農場の拡大と高品質化を図るため、認定率の向上により認定頭数を増やす
12	信州ブランド魚の生産量 (信州サーモン・信州大王イワナ)	345t	485t	需要増に対応するため、水産試験場による稚魚供給量を増やす
13	国際水準GAPの取得件数	14件	42件	国際的な取引拡大への確に対応するため、国際水準GAP取得件数を現状の3倍に拡大する
14	農業用水を安定供給するために重要な 農業水利施設の整備箇所数	—	44か所	農業用水を安定供給するため、基幹的農業水利施設のうち、更新整備や長寿命化対策が必要な重要構造物の整備を進める
15	「おいしい信州ふーど」運動 協賛企業・団体数	31団体	100団体	「おいしい信州ふーど」運動を浸透させるため、趣旨に賛同する企業・団体数を拡大する
16	「おいしい信州ふーど」SHOP登録数	1,298店舗	1,600店舗	県産農畜産物の魅力向上を図るため、「おいしい信州ふーど」を取扱うSHOPの登録店舗数を拡大する
17	県が主催する商談会における 農業者等の成約件数	208件/年	350件/年	県産農畜産物の販路拡大を図るため、商談会での成約件数を増やす
18	県産農産物等の輸出額	5.6億円	20億円	県産農産物等の輸出額を増やすため、東南アジアを中心に需要が高い果樹・花き等の輸出量を拡大する
19	売上高1億円以上の農産物 直売所数及び売上総額	52施設 151億円	60施設 200億円	食の“地消地産”の推進を図るため、機能強化等により1億円以上を売り上げる農産物直売所及びその売上額を拡大する
20	学校給食における県産食材の 利用割合	45.7%	48%	子どもたちの食への理解を深めるため、学校給食での県産農産物の利用割合を拡大する
21	地域ぐるみで取り組む多面的機能を 維持・発揮するための活動面積	40,827ha	49,800ha	農業農村の多面的機能を維持・発揮するため、地域ぐるみの協働による取組を拡大する
22	荒廃農地解消面積	991ha/年	1,000ha/年	農地の有効活用を図るため、荒廃農地の再生及び再生困難な荒廃農地の非農地判断を進める ※本計画から新たに非農地判断分を含める
23	都市農村交流人口	624,909人/年	690,000人/年	都市住民との交流人口を増やすため、農業農村資源を活用した収穫体験など地域の創意工夫による都市農村交流を進める
24	地域おこし協力隊員の定着率	69.2%	75.0%	農村コミュニティの維持・強化に資するため、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を進める
25	農業用水を活用した 小水力発電の設備容量	2,184kW	4,000kW	農業用水路等の維持管理費の負担軽減を図るため、農業用水を活用した小水力発電の導入を進める
26	新たに観光資源として環境整備 された疏水等の箇所数	—	25か所	農村の活性化を図るため、各地域2～3か所の疏水等を新たに観光資源として活用する取組を進める

※ 2 「法人経営体数及びその常雇用者数」のうち、「その常雇用者数」の現状値及び目標値については、2018年度から新たに調査を開始し、その調査結果(2017年実績)を現状値とする。 目標値は、現状値等から別途設定する。

5 各地域の取組方向

地域の特徴を踏まえて「めざす姿」を明らかにし、その実現に向けた具体的な取組

	上段:基本目標 下段:主な取組内容		上段:基本目標 下段:主な取組内容
佐久	夢ある未来にチャレンジ!!健康長寿の里で広げる佐久農業 ○ 南佐久の大規模露地野菜経営体における外国人材を含む雇用労働力の安定確保 ○ 農業者の高齢化等による生産の減少が危惧される果樹、花き、野菜の果菜類の担い手の重点確保 ○ 農産物直売所の機能強化による軽井沢などのホテル等への地元食材を供給する地消地産の体制づくり	上田	多様な人材が活躍する、人と食をつなぐ上小農業 ○ 年間降水量が少なく、日照量が多いという地域の優位性を活かして、耕作放棄地の活用などによるワイン用ぶどう団地の整備 ○ 温泉旅館等への地域食材の供給など農産物直売所機能の強化による地消地産の推進 ○ 国際水準GAP取得推進による地域ぐるみでの環境にやさしい農業の取組を拡大
	高い標高、高い品質、高い志が育む諏訪の農業 ○ 野菜の施肥軽減技術の導入など諏訪湖創生に寄与する環境にやさしい農業の推進 ○ ハヶ岳西麓の冷涼な気候条件を活かしたセルリーなどの高原野菜や花きの園芸農業の強化 ○ 避暑に訪れる都市住民に対する農産物直売所等による交流活動の推進		二つのアルプスが輝く、大地と人を育む上伊那の農業・農村 ○ 全国に先駆けて組織化された集落営農組織の人材確保と体質強化による経営発展 ○ 農村女性グループによる食農教育の取組強化による地消地産の推進 ○ リニア新幹線開通を見据えた農泊による都市農村交流の推進
南信州	豊かさあふれる南信州農業！農から始まる新しい交流文化 ○ 市田柿の生産拡大と、GIを活用した有利販売などによる市田柿生産者の経営の強化 ○ シードルの商品化など地域特産農産物を活用した6次産業化の推進 ○ リニア開通を見据えた移住・定住の促進などによる都市住民の農村への誘致	木曾	木曾らしく、農業の個性を高め、伝統食で人をつなぐ ○ 御嶽はくさいの作業支援体制の構築と更なる経営改善を推進 ○ 和牛繁殖センターの利用促進及びET子牛の供給による木曾子牛生産者の支援 ○ すんきのGI取得により、一層のブランド力向上を図るとともに、木曾地域連携による安定出荷体制の構築を支援
	豊かな水と大地の力を結集！未来につなぐ松本農業 ○ レタス、すいか、ながいも等地域ブランドの生産安定とワイン用ぶどうの生産拡大 ○ 長果25(シナリップ)や夏秋いちご等の伸びしろのある品目の生産拡大と新規栽培者の確保 ○ 農産物直売所を核とした旅館・ホテル等への地元食材の供給体制の構築		「人」と「食」がつながる北アルプス山麓の農業・農村 ○ 酒米の品質向上に向けた栽培方法(深水管理等)の実証、新品種の試作・普及 ○ マーケットニーズに即した北アルプス山麓育ちの農産物の生産と更なるブランド化 ○ 自然豊かな観光地ならではのホテル・旅館等での郷土料理によるおもてなしに向けた地場産農産物の供給
長野	未来に夢を！次代へつなごう食と農、地域で築こう元気な農村 ○ 新規就農者や定年帰農者など多様な担い手によるぶどう、りんご等果樹の生産振興 ○ 農商工親連携等による果樹を軸とした地域活性化への「ながの果物語り」の推進 ○ 地すべり防止施設の長寿命化とため池の耐震化などによる農村の安全を守る取組の推進	北信	北信州 つなぎ育む 人・食・農 ○ アスパラガスやきのこ、岳南のりんご・ぶどう等の果樹生産、岳北の良質米生産など地域の強みを活かした生産振興 ○ きのこの国際水準GAPの取得を推進 ○ 先人が築いた棚田や疎水を活用したツーリズムや都市農村交流の推進